

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム サザンツリー (西ユニット)		
所在地	兵庫県姫路市飾西330番地		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomatationPublic.do?JCD=2894000088&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に掲げている「その人がその人らしく暮らせる」よう、入居者と職員がともに暮らし、深くかかわりを持っている。入居者全員にセンター方式を取り入れ、それぞれの個性を大切に、気持ちに添ったケアを心がけている。管理者や職員は、日々気付いたことを報告、記録、共有し、話し合いをして、ケアの質の向上や一貫したケアの提供に努めている。家族の希望もお聞きしながら「三位一体」のケアに取り組んでいる。東ユニットでは、開設以来毎日の散歩や入居者の電子オルガン演奏とコーラスが日課であり、心身の活性化をはかり、健康で豊かな気持ちになれるケアを心がけ、継続している。西ユニットでは、個性あふれる入居者に対し、真の気持ちに寄り添うケアをつねに探りながら、穏やかで自然な笑顔があふれる生活を送れるように、また思い思いの暮らし方の支援に取り組んでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して6年が経過しているが、職員自身が人としての接遇面の意識を高め入居者の活性化を柱に自立支援を行い笑顔で暮らせる事を目標にした支援がなされている。重度化を最小限に食い止められるよう日々の活動に力を注ぎ、買い物、公園、公共施設等が徒歩圏内にある利点を活かし毎日の外出支援が行われている。地域との繋がりも深まり地域の中へ出て行くことも多く、入居者、家族、地域住民と一緒に楽しめる行事も取り入れられている。北欧で学んだケアのあり方を念頭に置き、グループホームのあるべき姿を維持するため入居者の気持ちに寄り添い、伸びやかなケアを目指してそれぞれの残存能力が最大限に発揮できるようにチームで支えている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに生きる」を理念のひとつに掲げ、日々考え実践している。職員は毎日の朝礼で理念の唱和を欠かさず行い、意識付けを行うことで、ケアの質向上につなげている。	管理者、職員で開設時より基本理念を掲げニーズに応じ見直しながら作り上げている。尊厳ある生活、地域と共に、本人本位を念頭におきケアにあたっている。毎朝の唱和だけでなく、職員会議でも常に理念に立ち返る場を持ち、認知症高齢者に対するグループホームの役割やあり方をいつも意識している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事への参加は、入居者のあたりまえの生活の一部となっている。特に、地域包括支援センターのなごみの会との交流は回を重ねて実績を残している。	その人の状況に合わせた散歩を毎日の日課とし、ご近所の方々との交流を図り、週に一度は入居者と職員と一緒にごみステーションの清掃を担い地域の一員としての役割も持っている。また、地域行事への参加や地域包括支援センター主催のなごみの会と交流もでき地域住民となじみの関係が構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に認知症見守り隊員を受け入れて、入居者の現状を知っていただく機会を設けている。地域住民に向けては、道沿いに伝言板を設置して交流のきっかけづくりをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、現状報告を行っている。知識のない方々に認知症を理解していただくことは容易ではないが、メンバーの地域包括支援センター委員の方には理解を深めていただいていると実感している。	二ヶ月に一度自治会副会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、入居者、家族、職員をメンバーにグループホームの現状報告や意見交換がなされている。地域の方々の認知症に対する認識がまだあまりない事を実感し、行事案内を外に掲示し、訪問しやすい状況を作り理解を得られるよう工夫している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は開設以来初めて介護保険課の現地指導を受けた。具体的な指摘や指導をもとに、ホームの運営改善に役立てた。また、定期的にホーム便り等で現状報告をしている。	姫路市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や研修、事例検討等を行っている。また、広報誌を介護保険課に送付し現状報告を行っている。現地指導を受けマニュアルや記録物についてのアドバイスをもらい改善されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施しており、開設以来身体拘束は行われていない。安全確保のため、門扉の施錠については、家族の同意を得ている。毎日の散歩や定期的な外出により開放感を感じていただくよう努めている。	門扉の施錠は行っているが家族にも理解を得られており、玄関は開放されており自由に外に出ることができる体制は取られている。また、身体拘束についての研修を定期的に行い制止することもないよう職員間で注意しあっている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「尊厳のある生活」を理念のひとつに掲げており、開設以来虐待が行われたことはない。内部研修を実施し、つねに職員の意識付けを行っている。	尊厳ある暮らしを第一番目の理念に掲げ、職員一人ひとりが意識してケアにあたっている。管理者やケアマネジャーが現場での言動や接遇に注意している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講させたり、内部研修を実施し、職員の理解を深め、家族支援に役立てられるよう努めている。現在、ホームに住所を移したり、成年後見制度を利用する入居者が複数おられる。	成年後見制度を利用している入居者もおられ制度の理解は出来ており、住所をホームに移している方も親類の方と共に支援している。研修への積極的な参加により職員の理解も深まっている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項等の説明に十分な時間をとり納得していただくようにしている。料金等改定の際は、書面で通知、説明し、理解いただくほか、定期的な連絡や面談を心がけている。	契約時にはグループホームの役割や出来る支援等を説明し、納得の上での契約を行っている。状況変化時は家族との連絡を密にし、退去時の不安が取り除けるよう配慮している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員が入居者の近況をお知らせし、ケース記録を閲覧していただいている。要望や問題がある場合は、ケアマネや管理者が同席するカンファレンスを実施し、改善に努めている。	個別には面会時に状況報告を行い、要望や意見を伺うようにしている。家族と一緒に楽しく過ごせるよう交流会として食事会、旅行等参加しやすい行事を計画している。交流会ではホームでの生活の継続の希望や退去時の不安等の意見が出ている。	今後家族が要望や意見をひろく伝えやすい状況を作り、運営に反映できるような取組みが期待される。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、管理者及び職員全員が出席するスタッフ会議を実施し、問題解決や改善提案の場としている。管理者は、職場において日常的に職員らの相談や報告を聞き、現状把握に努めている。	月に一度は全体の職員会議と、ユニットごとの会議を行い意見交換や課題解決に向けての場としている。職員からの意見や提案も活発に出されホームでのケアの向上に繋がっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の会話や面談を通じて職員の意見を取り入れ、職場環境や労働条件の改善を実施している。職員の能力や実績を公平に評価することで、やる気を引き出すよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望または勤続年数や経験に応じて、外部研修を受講させている。また月1回の内部研修において様々な事項を取り上げ、プロの介護者としての知識やスキルを身につけられるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席し、他ホームとの交流に努めているが、相互訪問には至っていない。当協議会では、踏み込んだ話し合いができていないので、闊達な意見交換に努めたい。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく過ごして頂く為、入居者、家族に見学に来て頂いたり、入居者、家族が同席の上で要望や不安などお聞きしている。また初期には細やかな声掛けで安心できるよう努めている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と家族の思いが違うことを理解し、家族の意見や要望、気持ちの葛藤等を出来る限り受け止めるような関係作りを心掛けている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や相談を重ね、家族や入居者の実情や要望を聞き取ったり、居宅ケアマネジャー等からも必要な支援の見極めをするべく相談しながら安心して生活できるよう配慮している。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しているという気持ちで接するのではなく、つねに入居者とともに暮らしているという気持ちで、料理、掃除などの家事も入居者に尋ね学ぶことが多い。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時はケース記録を読んで頂くとともに、口頭でより詳しく入居者の様子を伝え、家族の思いを伺っている。また、面会の少ない家族にもときどき面談を行うなどして、支え合う関係づくりに努めている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人、知人の面会や電話もある。手紙や年賀状のやりとりも継続できるよう、入居者のこれまでの生活を大切に支援している。	入居してもこれまでの関係を継続できるよう手紙や年賀状、電話による交流の支援を積極的に行い、友人や知人が面会しやすいよう配慮している。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く、お互いに声をかけ合ったり、外出する時は誘ったりされ、思いやりも生まれ、良い関係ができていく。トラブルが発生しそうな時は、スタッフが間に入ることで回避している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者に、入居者の状況、習慣、好み、ケアの取り組み等詳しく伝え、ダメージを最小限にとどめ、暮らしの継続性に配慮してもらえるよう働きかけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、入居者や家族の希望や気持ちをくみ取りながら、モニタリングやカンファレンスで意見を出し合い、入居者の意向と現状の様子を検討している。	入居者一人ひとりに担当職員がつき、センター方式を取り入れ詳しい状況把握に努めている。本人の気持ちを言葉に置き換え、整理し課題を見つけ出し解決に向けたケアがなされている。表現しにくい人には思いを把握し希望が実現できるよう支援している。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、習慣、サービス利用の経過について、家族や入居者から情報収集し把握した上で安心してホームでの生活ができるようにしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや生活歴等を理解し、日常生活の中で常に観察する力を養い、何が出来て何が出来そうなのかを日々把握するよう努めている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングで現状を知り、会議で意見を出し合っている。気付いた事は毎日またはその時々すぐにスタッフ同士で意見を交換し、計画やケアの見直しをしている。	担当職員のアセスメントを下にサービス担当者会議を開きその人に即した計画書を作成している。また、スタッフ同士の意見を反映させ毎月モニタリングを行い3ヶ月ごとの見直しが行われている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、1日の様子や発言を記録し、全職員で情報を共有し、毎朝カンファレンスを行って今後のケアについてチームで統一したケアを心掛けている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の行事を行い、買物や外食も含め入居者や家族の状況に合わせてマンツーマンで対応する等その時々ニーズに添った対応をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れている。近隣のスーパーや美容院の利用、地域包括の協力を得て地域の方と料理作りなど交流を通して、豊かで楽しみのある暮らしを支援し、地域に根差したホームを目指している。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している地域の総合病院、歯科往診があり、入居者や家族の希望に添って利用して頂いている。また受診時には情報を提供し、連携を図っている。	協力医療機関とは連携がとれ情報提供表を活用し経過報告を行っている。定期往診や他科受診の支援も出来、歯科の往診も毎週ある。家族の協力も得ながら健康管理に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、バイタル測定し、表情、体調の観察を行っている。職員は介護に最低限必要な医療の知識を持つよう努め、家族と密に連絡、相談しながら、医療機関へは適時受診できるよう情報提供している。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には、入居者の情報提供をしている。それを更に医療機関や家族との情報交換、相談と進めている。環境の変化によるダメージの軽減に努めるとともに、入退院がスムーズにできるよう、見舞いをしたり、家族との相談にも対応している。	入院時には病院に面会に行ったり家族と連携を図り状況把握に努めている。退院が決まれば病院のカンファレンスに参加し退院後安心してホームで生活が送れるよう支援している。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応については入居時を含め予想される早い段階から職員、家族、入居者間で話し合いを重ね、その時々でホームがどこまで支援できるかを家族に説明したり、希望を聞き、他の施設を紹介するなどの支援をしている。	できる限り現状維持していくために入居者の活性化に力を注ぎ、重度化しないためにはと考える、日々の散歩や活動的な生活の支援に努めている。疾患等でホームでの生活が困難となった場合は、家族との話し合いを重ね方向性を決め支援している。	事業所としての方針は明確にされているが、今後グループホームでの重度化した場合や終末期の受け入れについても視野に入れ、職員の研修等体制を整備し支援に向けての準備が期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や緊急対応のマニュアルがあり、会議で話し合っているが、さらに緊急時の職員の連携を中心に実践力をつけたい。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施し、近隣住民の方にも参加して頂いている。今後もあらゆる状況に迅速に対応できるような体制を整えたい。	年に二回の消防訓練を夜間想定も含め入居者も一緒に実施している。また、近隣住民への協力依頼も行い参加を呼びかけている。現状の避難場所も確保し、地域の避難場所も確認している。	職員だけの誘導等には限界もあるため、地元の消防団の協力体制の整備や飲食料の備蓄等の検討も望まれる。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げてあるが、一人ひとりの「その人らしさ」を尊重している。想いを傾聴し、ゆったりとした気持ちで人生の先輩から教えて頂くという意識で接している。	尊厳ある暮らしを理念に掲げ、日ごころからの言葉使いや接遇面で気をつけ、職員一人ひとりの言動にも注意を払っている。特に排泄ケアや入浴時等羞恥心が損なわれないよう十分な配慮を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせ思いやりの態度で声掛けをし、話しやすい環境作りを心掛けている。表出が出来にくい方に関しては、解りやすい言葉、または選択して頂いたり、毎日の表情や動作などから察することもある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムがあることを理解し、活動しやすく、急な希望にも添えるよう職員全体が心構えをもち、居心地の良い生活を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、好きな服、ネックレス等でおしゃれを楽しんで頂いている。意思表示しにくい方には、入居者が手に取られるものの着用をしていただき、こまめな下着交換など支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話や笑いを交えた楽しい食事を心掛けている。季節感のある献立、彩に気を配り、入居者が昔から食べ馴染みがあるものを提供している。片付けなど、個々に出来ることを見極め職員と一緒にやっている。	毎日3食献立から買い物、調理、片付けまで職員と入居者とで一緒に行っており入居者それぞれに応じて活躍できる場面を作っている。落ち着いた環境で食事に集中でき、職員も含め談笑しながら楽しめる雰囲気となっている。前後の挨拶も行い、後片付けも自然にみんなできている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面、食事量、水分摂取量も含め、塩分控えて野菜や食物繊維を多く、一人ひとりの状態を把握しながら栄養のバランスに注意した食事作りに努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、一人ひとりの力に合わせた口腔ケアの実施と、義歯の方には夜間の消毒を行っている。また歯科往診もあり、清潔保持に努めている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、ほぼ自立されている。衛生上問題のある方には見守りを行ったり、様子や動作で職員が察知しトイレ誘導する等、その方に応じ自立に向けた支援をしている。	入居前は紙パンツの方も布パンツでも過ごせるよう自立に向けたケアがされている。ほとんどの方が自立され、声掛けや誘導等必要に応じた支援がなされている。特にプライバシーには注意し一人に限定しないような声掛けを心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く含むバランスの良い食事を提供し、毎日適度な運動を日課にしている。必要に応じ腹部マッサージを実施し便秘予防をしている。薬の服用は家族、医師と相談している。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯はほぼ決まっているが、入居者の気持ちを聞き、無理強いせず、時間帯も必要に応じて変更する等、個人の意向に添いながら、入浴中は職員が時々浴室の様子をうかがうなど、こまめに見守るよう、心がけている。	一日の流れのなかで午後に入浴時間を設定はしているが、その時々状況に応じ無理強いすることなく意向に添って夜間でも対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	流れのある1日の中にも、一人ひとりの生活習慣やリズムを考慮し、安眠休息がスムーズに出来る空間や環境作りを心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴、現在の症状と照らし合わせ薬の効能や副作用の理解に努めている。入居者に確実に服用して頂くようチェック体制を整備している。症状の変化は全職員で観察した上で医療機関へ情報提供している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在の残存能力を活かし個々の意欲や希望を取り入れ、生活の中で力を発揮できる場を提供し、張り合いを持ち自然な笑顔が見られるよう支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、喫茶外出、外食、散歩と戸外に出る機会を作っている。また家族、地域の人々の協力を得ながら、外出支援をし、その人らしい暮らしが出来るよう心がけている。	日々の外出は、散歩や買い物等毎日状況に応じ行っている。また、担当職員が考え一人ひとりの希望に応じた外食や楽しみな外出の支援ができています。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で自己管理出来る入居者には一定の額を所持して頂き、買い物などの外出時お金を支払って頂いている。その方の力に合わせ預かり金から支払う場合もある。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、入居者の希望があれば、電話が出来るよう支援している。送られてきた手紙なども入居者に渡し返事を投函できるようにしている。また、季節ごとに葉書を作成し送ったりしている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は歩行しやすいよう物を置かないようにし、リビングや洗面所など常に清潔にして季節の花を飾ったり行事予定や写真、レクレーションで作成した季節感を感じ取れる作品などを展示し、家庭的な雰囲気を心がけている。	どちらのユニットもそれぞれ落ち着いた雰囲気です。温湿度の管理、安全確保や清潔面で配慮された環境整備がされている。居間は季節の花を飾りゆったりと過ごせるよう工夫されている。ほとんどの方が居間で会話や作業を楽しみ、くつろげる場となっている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファやゆったりした椅子などを配置し、少人数で寛げるよう、またテレビや新聞など思い思いの過ごし方が出来るよう配慮している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し家庭で使用していた馴染みの家具や小物、また配偶者や家族の写真を置いていただいたりして落ち着いた空間をつくり、その方にとって居心地良く暮らせるようにして頂いている。	エアコンと整理ダンスを備え付け、あとは家族と相談して使い慣れたものを自由に置かれている。居室の環境整備もその人に応じた支援がされ落ち着いた過ごせる部屋となっている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で一人ひとりの出来る事を活かすよう安全面でも考慮しながらその方に応じた支援をしている。意欲を維持、また引き出す工夫したり力に合わせた支援をしている。		